

# 群馬クレインサンダーズ

昨年7月、太田市にホームタウンを移転した、プロバスケットボールチーム、群馬クレインサンダーズ。地元への感謝と今シーズンへの決意を取材した。

## 新B1参入を見据え ホームを太田市に移転

2011年9月に誕生した群馬クレインサンダーズ。2020-21シーズンにおいてB2(ブリーグ2部)の史上最高勝率達成と、ホーム戦全勝という前人未到の快挙を遂げ、B1(ブリーグ1部)昇格を果たした。

B1昇格を見据え、2020年夏頃から水面下で進行していたのが、ホームタウンの移転だ。その背景にあるのは、Bリーグが2026年秋から計画している将来構想である。

「収容人数5千人以上の基準を満たす夢のアリーナ」「1試合平均4千人以上の入場者数」

「年間売上高12億円以上」という新B1の参入条件を満たすため、チームを運営する株式会社群馬ヨンは、ホームタウンの移転を検討。こうしたなか、浮上したのが、スポーツを軸にしたまちづくりを掲げ、新アリーナの建設予定を進めていた、太田市への移転だ。

2021年2月、チームのホームタウン移転がBリーグ理事会にて決議。それに伴いチームは、新アリーナの完成を待たずして太田市への早期移転を決めた。地元の市民と共に盛り上げを醸成することが、新アリーナを満員にする近道だと考えたからだ。

同年5月、B2プレーオフを制したチームは、B1に昇格。7月

21・22開幕節に臨んだチームは、前シーズン準優勝の宇都宮ブレックス相手に2連勝することができた。しかしB1の壁は高く、25勝30敗の東地区7位で昨シーズンを終えた。

目標としていたチャンピオンシップ進出は逃したもの、昇格を終えた。

一方、選手たちを迎えた地元の太田市では、チームを応援するためにはさまざまなムーブメントが起こる。その代表的な催しが、ホーム戦に合わせて太田市運動公園で開催されるOTAマルシェだ。キッチンカーなどが出店するイベントを機に、試合会場へ足を運ぶ人も増加している。

「地元の皆さんのお援がいが、僕たちの力になっています」と、今期の主将を務める野本建吾選手は笑顔を見せる。人々の思いに応えるため、今シーズンは優勝を目指したいと決意を明かしてくれた。

水野ヘッドコーチは優しい語る。そのためにも、優勝を目指せるチームづくりにまい進し、地元の人々と共に歩んでいきたいと言葉を結ぶ。

今、バスケットボールへの熱気が高まる太田市。今シーズンは会場に足を運び、群馬クレインサンダーズと共に、勝利の喜びを分かち合ってほしい。



屋外で体力づくりに励む選手たち

#14  
菅原 嘉選手  
1998年  
5月27日生まれ  
岩手県出身  
身長:183cm  
体重:83kg

#16  
並里 成選手  
1989年  
8月7日生まれ  
沖縄県出身  
身長:172cm  
体重:72kg



#11  
野本建吾選手  
1992年  
4月25日生まれ  
兵庫県出身  
身長:201cm  
体重:101kg

## 地元の応援を力に変え B1の頂きを目指す覚悟

猛暑が続くシーズンオフのある日、太田市内のグラウンドに足を運ぶと、黙々とトレーニングに励む選手たちの姿があつた。

「今年は初めて芝生上でトレーニングを取り入れました」と説明してくれたのは、今年6月に就任した水野宏太ヘッドコーチだ。シーズン開幕に向けて体に負担をかけずに動きの質を上げるために、練習メニューも新たな挑戦を取り入れているのだと話す。

水野ヘッドコーチの補佐役として選手たちの士気を鼓舞するのは、カイル・ベイリーアシスタントコーチである。「チームを強くするため、さまざまなことを改善し、全員がしっかりと互いを理解して新しいシーズンに臨みたい」と語る。

「昨シーズンは悔しい結果に終わった」と菅原選手は振り返る。しかし、仲間と共にさまざまな問題を乗り越えてきたからこそ、今後の課題が見えたと前を向く。

琉球ゴールデンキングスから



## アリーナの外でも盛り上がる 群馬クレインサンダーズの地元愛!!

カイル・ベイリー  
アシスタントコーチ水野宏太  
ヘッドコーチ

## 2022-23シーズン開幕!!

10/1土・2日

VS 滋賀レイクス

会場:太田市運動公園市民体育館  
群馬クレインサンダーズをアリーナで応援しよう!

詳しくはWEBへ!

